

多忙な社長業のかたわら、簡単に声を取り戻す「シャント法」の普及に邁進

「翼をもがれた社長」は、 こうして翼を取り戻した

送電線工事業業界では国内屈指の会社を率いる岩瀬俊男さん。いったんは治ったかに見えた喉頭がんが7年後に再発。そのため喉頭全摘の憂き目にあい、経営者としては致命的な声を失う危機に。そんな危機を救ったのは何だったのか。翼をもがれた鳥ならぬ社長の、翼を取り戻す決意と道程を辿る。

取材・文●吉田耀子



いわせ としお 1947年神奈川県生まれ。1970年日本大学理工学部交通工学科卒業後、岳南建設株式会社に入社。2001年代表取締役社長に就任（～現在）。社長就任半年後の54歳のとき喉頭がんを発症。7年後に再発し、喉頭を全摘する。シャント法により声を取り戻し社長業に復帰する

今の自分があるのは
「前進あるのみ」できたから

喉頭がんの手術で喉頭を全摘すると、声帯を失って話すことができなくなる。しかし欧米では、喉頭を失っても、簡単な手術と訓練で声を取り戻せる「シャント法」が普及している。このシャント法を日本に広めるべく、NPO法人「悠声会」の副会長として活動しているのが、サバイバーの岩瀬俊男さん（65歳）だ。

岩瀬さんは、送電線工事業では国内屈指の專業会社である、岳南建設の5代目社長。さらには、9社を傘下に置く持株会社、岳南ホールディングスの初代社長でもある。

岩瀬さんが喉頭がんを発症したのは、社長就任から半年後の